

亀岡市長 桂川孝裕 様
亀岡市教育長 神先宏彰 様

亀岡市議会総務文教常任委員会
委員長 松山雅行

学校給食に係る提言

本市は、令和4年8月22日に「子どもファースト」を宣言し、その具体的取組の一つとして、「中学校給食の早期実施」を掲げ、亀岡市学校給食検討懇話会を設置し、今後の学校給食の在り方を検討されています。本委員会においても、学校給食についての行政視察を実施するなど、研究・議論を重ねてまいりました。

中学校給食については、現在、選択制デリバリー弁当を実施されているものの、喫食率が低く、食育の要素はありません。また、小学校給食の継続実施と併せて、現学校給食センターの改修または建替えの問題、中学校給食の実施に係る施設整備の問題などハード面において多大な費用が必要な状況です。ただ、学校給食の適正実施は学校給食法に基づいた地方自治体の責務として、一定の予算措置は当然のことであり、様々な手法がある中で、より効果的で効率的な施策の選択が大変重要となっています。さらには、令和6年度に育親学園が開校し、令和8年度から育親学園の自校給食の実施が決定している中において、他校の給食の進め方も考えていかななくてはなりません。このような状況において、総務文教常任委員会として、下記のとおり提言いたします。

記

- 1 中学校給食の新規実施をはじめ、小学校の給食継続を含めた「学校給食」の在り方について、様々な手法のメリット・デメリットを十分に研究するとともに、必要に応じて手法を組み合わせるハイブリッド方式等、多様な選択肢についても検討を重ねられたい。その上で、早期に本市にふさわしい最善の方向性を示されたい。
- 2 食育基本法における「食育」の理念に基づき、給食も大切な教育の一環であることの認識を持ち、適正に推進されたい。

(裏あり)

- 3 選択制デリバリー弁当の量が多いため、選択していないというアンケート結果や、家庭から持参した弁当も給食時間の関係から少なめにしているとの声を聞くが、成長段階にある中学生の食事量が減ることは、身体の発育に重大な支障をきたす懸念があるため、給食実施後は年齢に見合った量の食事が取れるように、魅力のある給食の提供、給食時間や環境等の確保、人員配置について十分に配慮されたい。

総務文教常任委員会	委員長	松山 雅行
	副委員長	三上 泉
	委員	竹内 博士
		小林 仁
		浅田 晴彦
		原野 実生子
		福井 英昭
		山本 由美子